

都市内鉄道高架橋の周辺住民による評価と
評価に関連する因子

正会員 ○鈴木玉美* 同 梅宮典子**
同 大倉良司***

鉄道高架橋 印象評価 POMS 評価

1. はじめに 大阪南部のターミナルのひとつである天王寺と和歌山を結ぶ JR 阪和線は、平成 18 年に 4.9 キロメートルの区間で踏切を撤廃して高架化を完了した。本研究は沿線住民にアンケートを実施して、住民が高架をどう評価し、高架の評価に影響する因子が何であるかについて分析する。印象評価は SD 法により、気分評価には POMS (Profile of Mood States,) の評価項目から 40 項目を用いた。

2. 方法 2.1 調査方法 南田辺駅、鶴ヶ丘駅、長居駅、我孫子町駅、杉本町駅を中心とした高架周辺の 5 地区の高架橋から東西両側の 4 本目の通りまでの範囲において、戸建てと集合住宅がほぼ同数となるよう無作為に 1900 戸を選定した。平成 19 年 10 月 13 日と 20 日 (土) に各戸の郵便受けに投函し、郵送で回収した (回収数 296 通、回収率 15.6%)。 2.2 調査項目 1) 回答者属性 (性別、年齢、職業、交通手段等 10 項目)、住戸属性 (住居形態、住居面積、高架の見えやすさ、居間階数、窓方位、居住年数等 12 項目)、住環境評価 (日当たり、風通し、自然環境、交通の便、地域好感度等 6 項目) として、5 段階計 28 項目。2) ごみごみ ⇄ ごみごみしていない、目立つ ⇄ 目立たない、良い ⇄ 悪い、快適 ⇄ 不快、有効 ⇄ 無駄、きれい ⇄ 汚い、開放的 ⇄ 圧迫感のある、明るい ⇄ 暗い、自然的 ⇄ 人工的、田舎的 ⇄ 都会的、新しい ⇄ 古い、整備されている ⇄ 未整備、清潔 ⇄ 不潔等の印象評価 5 段階 35 項目。夜間に周囲が暗い ⇄ 明るい、高架は都市に必要 ⇄ ないほうが良い、高架は環境にいい ⇄ 悪い、渋滞が増えた ⇄ 減った、高架化してよかった ⇄ しないほうがよかった等の高架化の評価 5 段階 11 項目。3) 高架の近くでの気分として、緊張・不安 (POMS T-A)、抑うつ・落ち込み (POMS D)、怒り・敵意 (POMS A-H)、活気 (POMS V)、疲労 (POMS F)、混乱 (POMS C) の 6 分類合計 40 項目。各項目について「まったくなかった」(0 点) から「非常にたくさんあった」(4 点) までの 5 段階。

3. 結果及び考察 3.1 住環境評価、高架の印象評価、高架化の評価 住環境評価では、日当たりは「普通」29% で「よい」と「悪い」側がほぼ同数、風通しは「悪い」52% ついで「普通」23%、自然環境は、「悪い」～「普通」の合計が 95%、交通、買い物は、「便利」と「やや便利」を合わせてそれぞれ 78、75%、地域好感度は「普通」が 40% で「少し好き」が 26% である。

印象評価 35 項目では、「ごみごみしていない」「目立

つ」「良い」「快適」「有効」「きれい」「開放的」「明るい」「人工的」「都会的」「新しい」「整備されている」「清潔」で、「あてはまる」側が「あてはまらない」側より多い。

「高架は都市に必要」「高架で日当たりは変わらなかった」「風通しは変わらなかった」「渋滞が減った」「高架化してよかった」は、「あてはまる」側が 74、69、74、76、71%。「高架は環境によい」は、「あてはまる」側は 40% で上記 4 項目ほど高くないが、「あてはまらない」側の 17% の倍以上ある。「犯罪の心配がある」「騒音が悪化」「眺めが悪化」は、「どちらともいえない」が最多で 45、41、53% で、「あてはまる」「あてはまらない」がほぼ同数。「電車がうるさい」は、「どちらでもない」が最多で 28% で、「あてはまる」「あてはまらない」がほぼ同数。「夜間に周囲が暗い」側は 44%、「明るい」側は 23%。概して、高架はよい側に評価されているといえる。 3.2 気分評価 表 1 に気分評価の得点と 0 点の割合を示す。得点が 0 点、すなわちすべての項目が「まったくなかった」である割合は、疲労 (F) が最も高く 62.1%、ついで怒り・敵意 (A-H) が 54.8% で半数をこえる。抑うつ・落ち込み (D) が 39.5%、緊張・不安 (T-A) が 39.0%、活気 (V) が 32.9% である。 3.3 回答者属性、住戸属性、住環境評価による高架の印象の差 回答者属性、住戸属性、住環境評価について、「良い」～「普通」を「良い」、「やや悪い」と「悪い」を「悪い」として 2 カテゴリーに分け、高架の印象評価 35 対について 5 段階を 1～5 とした得点の平均値をカテゴリー間で平均値の差の t 検定によって比較した。日当たり、風通し、自然環境、地域好感度の「良い」と「悪い」のあいだで、高架の印象評価に差がある。なかでも自然環境が「悪い」の人は「良い」の人に比べて、有意に高架を「人工的」「ありふれている」「ほっとしない」「やすらぎのない」等と捉えている (図 1)。地域好感度の「好き」「嫌い」にも印象評価に有意な差がある (図 2)。これらの評価項目は高架の印象に影響する要因といえる。一方、住戸属性や回答者属性によって高架の印象にはほとんど差がなく、住戸からの高架の見え方、居間の窓の方位、自家用車の使用有無、交通、買物の便利さによって高架の印象は変わらなかった。 3.4 気分評価による高架の印象の差 POMS の 6 分類ごとの合計得点を 0 点

と 0 点をこえる場合の 2 カテゴリーに分け、高架の印象 35 対について同様にカテゴリー間で比較した。0 点とそれ以外で差が大きいのは怒り-敵意(A-H)、活気(V)、疲労(F)、混乱(C)である。「心の中でふんがいく」「ふさげんだ」「いらいらする」「怒る」「内心ひどく腹立たしい」「はげしい怒りを感じる」からなる A-H では、0 点でない人(以降 N-0)は 0 点の人(以降 0)に比べて高架を有意に「目障り」「ほっとしない」「安らぎのない」「せわしい」と評価する。「陽気な気持ち」「元気がいっぱいだ」等からなる V では、0 は N-0 より高架を有意に「ほっとしない」「安らぎのない」「せわしい」等と評価する(図 3)。「つかれた」「だるい」等からなる F では、N-0 は 0 より高架を有意に「目障り」「ほっとしない」「安らぎのない」「せわしい」と評価する。「考えがまとまらない」「頭が混乱する」等からなる C では、0 は N-0 より高架を有意に「目障りでない」「散らばっている」等と評価する(図 4)。以上より、高架の設計に際しては、目障りでなく、ほっとできて安らぎがあり、せわしさを感ぜさせないように工夫することが重要であるといえる。

4. まとめ 高架化した阪和線高架橋について、周辺の 296 住戸を対象に調査した。1) 高架は「ごみごみしていない」「目立つ」「良い」「快適」「有効」「きれい」「開放的」「明るい」「人工的」「都会的」「新しい」「整備されている」「清潔な」印象である。2) 高架化は、「夜間に暗い」を除けば概してよく評価されている。3) 住戸の日当たり、風通し、地域の自然環境、地域好感度は高架の評価と関連がある。4) POMS のうち、怒り-敵意、活気、疲労、混乱の尺度は「目障り」「ほっとしない」「安らぎのない」「せわしい」「散らばっている」と関連がある。5) 性別、年齢、居間階数、交通手段は高架の評価と関連がない。以上より、周辺住民の大半は、高架は都市に必要で、渋滞が減り、高架化してよかったと受け止めている。地域の自然環境や地域好感度を向上させ、目障りでなく、ほっとできて安らぎがあり、せわしさを感ぜさせないように工夫すれば、高架の評価がさらに向上する可能性が示された。

謝辞 研究の実施に尽力された卒論生丸山裕司氏に謝意を表す。本研究は大阪市立大学工学研究科都市関連研究機構およびプロジェクト研究の研究費によった。

表 1 POMS の平均点と 0 点の割合

	平均点	最高点	満点	0 点の割合(%)
POMS T-A	7.3	36	36	39.0
POMS D	2.8	20	24	39.5
POMS A-H	3.3	24	24	54.8
POMS V	4.8	28	28	32.9
POMS F	2.7	24	24	62.1
POMS C	2.7	16	20	46.2

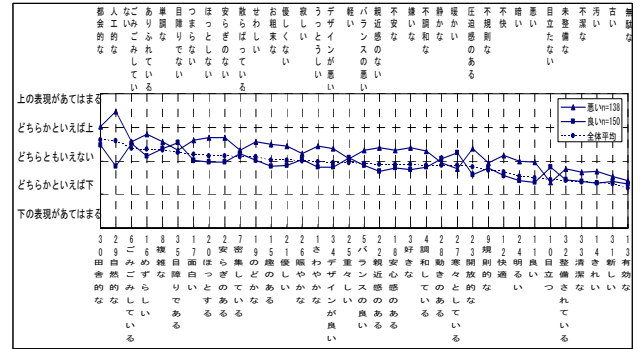


図 1 自然環境の良・悪と高架の印象評価

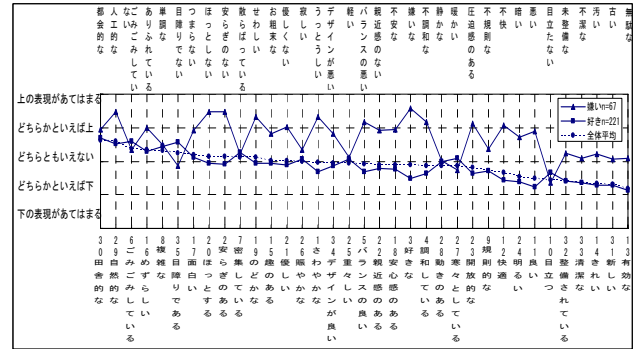


図 2 地域好感度の好・悪と高架の印象評価

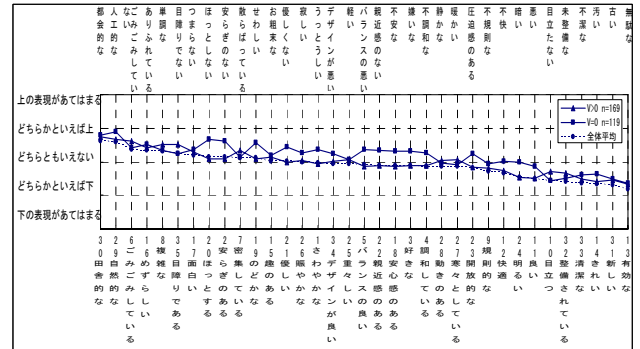


図 3 POMS V (活気) と高架の印象評価

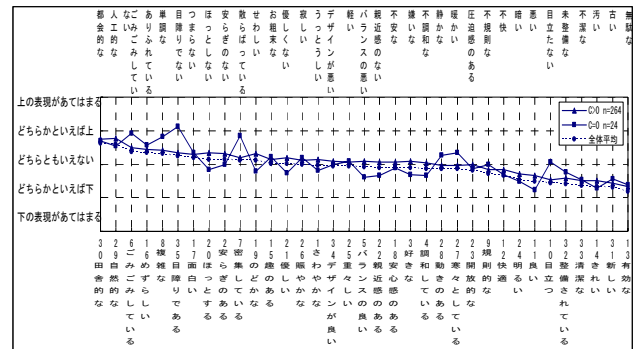


図 4 POMS C (混乱) と高架の印象評価

参考文献 1) 横山和仁、下光輝一、野村忍、診断・指導に活かす POMS 事例集、金子書房、2002 年 2) 西名大作、村川三郎、国内外河川景観の評価特性の比較分析、日本建築学会計画系論文集 第 491 号、pp.57-65、1997 年

* 大阪市立大学工学研究科 博士後期課程 工修
** 同 教授 工博 ** 同 助教 工修

*Graduate Student, M.Eng., ** Professor, Dr.Eng., ***Instructor, M.Eng., Graduate School of Eng., Osaka City University